

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスらびず			
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日	～	令和7年2月21日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日	～	令和7年2月21日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月18日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別の療育 (利用者それぞれに合わせたオーダーメイドの療育)	・机上でのプリントを使った社会性やコミュニケーションの学びから、小集団、集団へと学びをい生かせるような療育を心がけている。 ・個別だからこそ子どもたちのその日の体調や気持ちに合わせて、臨機応変に内容の変更もしている。	・個別なので、支援者との信頼関係が何よりも大事になる。話しやすい雰囲気や環境も大事なので、安心して話ができるようにその子に合わせて個別の場所なども工夫していく必要がある。また、個別内容も、職員間で情報共有し、支援に反映させていく。
2	・子どもたちの興味関心の強いパソコン、タブレット、ニンテンドースイッチなどを取り入れた療育 (対人関係やコミュニケーション、機能向上の療育)	・保護者の皆様から、オンラインのゲームや友達とのゲームでのトラブルの相談が近年とても多くなっている。ゲーム上でのマナーややり取りなど実際に一緒にゲームをやりながら学んでいる。 ・時間で終わる方、ふるまい方など家庭との共通理解ができる。	・パソコンやタブレット、ゲームが得意な子が多いので、もっと自信をつけて肯定感を上げていく。得意なことがあることですべての生活面でパフォーマンスが上がる。ゲームに関しては賛否があるが、視覚優位な子供たちにとって最もわかりやすく理解しやすい。上手に使うことを学んでいけるようにしたい。
3	・送迎時など保護者と家庭や学校などの様子を共有でき、支援内容に生かすことができる。	・事業所での活動の様子や学校からの引継ぎ内容などを話したり、保護者の悩みや家庭での様子を気軽に話ができるように心がけている。不安が大きいときは面談を実施するなど、保護者に寄り添い不安を解消できるようにしている。	・悩みを即支援に生かしていけるように、職員間の情報の共有や支援内容の話し合いを密に重ね、必要に応じて医療機関や他機関への相談をするなど、保護者の不安解消や子どもの安心につながるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動スペースの確保	・運動スペースを確保するのに、主に高学年や中高生においては、運動を取り入れた集団活動は狭さを感じる。	・構造化の工夫や移動できるよう配置を工夫する必要がある。安全面に配慮しながら考えていきたい。
2	・非常時等の対応	・保護者の皆様に面談時に話をしていたが、支援の内容の話が長くなってしまい、非常時の話が印象に残りにくい。	・非常時マニュアルの話をする機会を設ける。茶話会や参観の機会などに時間を作り周知徹底を図っていく。
3	・保護者同士の交流や子育ての助言の機会	・茶話会においては、仕事をしている保護者の方も多いため、参加をしたくてもできない状況がある。	・できるだけ早めにお知らせをしたり、グループ相談や事業所での研修会の開催など、保護者が顔を合わせる機会をもてるようにしていく。